

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	愛知県	事業実施主体	愛知県、南知多町	地域再生計画名	「知多半島先端のまち 活力向上計画」
計画期間	平成29年度～令和3年度	評価責任者	愛知県知多建設事務所河川港湾整備課長、南知多町建設経済部建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	基準年度	年度	中間実績	年度	最終実績	指標総数		達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	師崎・篠島・日間賀島における来訪者数の増加	1,631千人	2015(H27)	1,720千人	2019(R1)	1,295千人	1,809千人	2021(R3)	897千人	×	4	2	「師崎・篠島・日間賀島における来訪者数の増加」は、目標値を達成できなかった。その原因として、対象地区の観光の中心である「遊覧・温泉」、「釣り」、「海水浴」の利用が減少しており、特に2020年以降のコロナ禍による影響が考えられる。一方で、「観光における消費額」に着目すると、対象地区の観光客数は45%減少しているのに対し、対象地区を含む南知多町の旅行消費額（※南知多町の事業所数の伸び率から推計）は14%の減少で、観光客数の減少に比べて緩やかとなっている。また、2022年から観光活動が活発化しており、対象地区においても、師崎港から篠島、日間賀島の高速船利用者数は、2022年初頭から前年同期比で約26%増加している。さらに、観光客増加に向けて師崎港の観光センターの建て替えも予定されており、目標値は達成できなかったものの、対象地区の来訪者数の増加に向けて多様な取り組みを推進している。
	指標2	漁業就業者数の減少数の改善（日間賀漁港）	433人	2014(H26)	418人	2018(H30)	401人	403人	2021(R3)	386人	×	4	2	「漁業就業者数の減少数の改善」は、目標値を達成できなかった。しかしながら、漁業就業者数は、大井漁港が20%、日間賀島漁港が11%、それぞれ減少しているが、全国平均25%の減少に比べて緩やかな減少率となっている。一方で、「漁港背後地区の人口との相関」をみると、大井漁港では、漁業就業者数が20%減少しているものの、地区人口当たりの正組合員数では7%の減少にとどまっており、減少程度は緩やかとなっている。日間賀島漁港では、漁業就業者数が11%減少しているものの、地区人口当たりの正組合員数は減少しておらず、基準年とほぼ変わらない結果となっている。また、漁港利用者へのアンケート調査結果から、令和3年度に浮桟橋の整備が完了し、作業負担の低減効果が確認された。今後、さらに漁業就業者の作業負担が低減し、より長く漁業に従事でき、漁業就業者数の減少の緩和に繋がることが期待される。
		漁業就業者数の減少数の改善（大井漁港）	114人		110人		101人	106人		91人				
	指標3	労働環境の改善（日間賀漁港）	39.0%	2016(H28)	39.0%	2019(R1)	-	60.0%	2021(R3)	60.6%	○			
労働環境の改善（大井漁港）		26.0%	26.0%		-		50.0%	62.1%						
指標4	大規模災害時の離島と本土の交通ネットワークの確立	0航路	2016(H28)	0航路	2019(R1)	-	2航路	2021(R3)	2航路	○		「大規模災害時の離島と本土の交通ネットワークの確立」は、2021年度に岸壁整備が完了し、目標値を達成した。また、定期船利用者へのアンケート調査結果から、師崎港と篠島、日間賀島の定期航路は篠島、日間賀島の生活と産業維持にとって必要不可欠であることが確認された。① 高速船利用者は、知多半島側への通勤・通学客や通院客も多いため、生活面、健康面での安心・安全を維持できる。また、観光利用の割合も大きいため、定期航路の確保により島の観光産業が大きな影響を受けることなく維持できる。② フェリーは、島の主要産業である「水産加工業」及び生活物資等の輸送に必要不可欠な交通インフラであり、定期航路の確保により島の産業と生活を維持できる。		

②事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（R1）	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	港湾整備事業（整備延長）	110m	37m	110m	2021年度(R3年度)に師崎港の岸壁整備が完了した。
	漁港整備事業（整備数）	2基	0基	2基	2021年度(R3年度)に大井漁港、日間賀島漁港の浮桟橋整備が完了した。
その他の事業					
計画外で独自に実施した事業	観光センターの整備	港湾利用者が利用する建物だが、築40年以上を経過し老朽化が著しいため、より集客効果が発揮されるよう利用者や地元の見解を踏まえて建て替えを行う。			建て替えに向け2020年度(R2年度)、2021年度(R3年度)に「師崎港観光センター周辺整備調査業務委託」を実施し、観光センターに関する観光ポテンシャル、導入機能と事業可能性、駐車場問題への解決策、最適な事業手法の調査検討が完了した。今後はこの調査結果を基本に、観光センター周辺整備をPFI事業で行うに当たり、参入意欲のある民間事業者や地元への意見・要望ヒアリングや事業収支シミュレーションを行い事業者募集に向けて準備していく。また、産業振興のために、観光客等に対し地元の特産品をPRし、観光イメージの向上を図ることも検討する。
	沿岸水産資源増殖推進事業	南知多町の主産業である漁業の衰勢に歯止めをかけるため、町の委託事業として、マダイ、ヒラメ、メバル、カサゴ等の種苗放流を行い、水産資源の保護、漁家経営の安定を図っている。			篠島・日間賀島を始め、南知多町では魚や貝などの種苗放流事業が行われている。放流魚種の漁獲量を毎年確認することで、こうした放流事業の効果の評価・分析しており、安定的な漁獲量を維持するためには、今後も引き続き事業を行っていくことが重要である。また、ノリやワカメなどの養殖業については、近年、栄養塩不足や高水温により収穫時期が短縮しており、さらに魚や鳥からの食害被害も出ているため、食害防止対策事業を実施している。漁協ヒアリングによれば、養殖業は漁獲高の効果よりもオフシーズンでの雇用面の効果が大きいと指摘されている。漁業経営の安定と就業者数の維持に向けて、引き続き水産産業振興対策事業の継続が必要である。
	栽培漁業振興対策事業補助金	年々減少する資源の維持増大を図るため、アワビ等の種苗を放流し資源確保に努め、沿岸漁業者の所得向上を図っている。			
	コミュニティバスによる観光PR	SKE48とのタイアップにより師崎港（羽豆岬）公園内の歌碑やバス内のアナウンスなど集客力アップの施策。			コミュニティバス「海っ子バス」の利用者数は2021年において375千人/年となっている。バス利用者からのアンケート調査では運航本数、鉄道や高速船との接続、運賃、運航時間帯に対する不満などの問題点が指摘されており、引き続きこうした課題への対応を検討していく。
	離島の耐震岸壁整備	篠島漁港と日間賀島漁港の岸壁耐震化を進め、離島航路の防災対策を図り安心して利用できる環境を整備する。			日間賀島漁港と篠島漁港のフェリー岸壁の耐震化工事は2021年度(R3年度)に完了した。

③評価方法 地域再生計画評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行う。（2023年3月実施）

④事後評価の公表方法 愛知県・南知多町のホームページに掲載（2023年3月実施予定）

⑤計画全体の総合評価 本地域計画では港整備交付金を活用し、港湾施設と漁港施設の一体整備により、観光産業と水産業の活性化による相乗効果を発揮させ、南知多町の活力向上を図ることを目的としている。指標1の「来訪者数の増加」については、現時点では減少傾向であるが、少しでも来訪者数の増加が見込めるよう、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていく。

⑥今後の方針等 今後は
 ①観光来訪者数の維持と将来拡大に向けた観光振興の推進
 ②漁業就業者数の減少数の改善、漁港の労働環境の改善（漁場における栄養塩類環境の改善のため、国・県との協議）
 ③交通ネットワークの維持・確保（路線統合によるバスの利便性の向上）
 ④観光センター整備等による新たな魅力づくり
 により地域の活性化・再生に向けて取り組んでいきたいと考えている。